

今こそ焦点化・重点化を進めましょう!!

西部教育事務所 管理主監 栗本 郁夫

先日、ある小学校の国語の授業で、登場人物の人物像を考える場面を参観しました。先生の発問を受けて、一人の児童が発言した後、先生は、うなずきながら、「似た考えの人は?」「付け足しのある人は?」と尋ねました。すると、数人が補足し、さらに「なぜ、そう考えたと思う?」「どこからわかる?」と問うと、子供たちは、一斉に教科書の文章に目を向け、根拠となる叙述やそこから考えた人柄について次々と発言していました。まさに、一人の発言をきっかけにみんなで考え合い、登場人物の人物像が豊かに浮かび上がったすばらしい授業となりました。とかく、教師が発問し、児童生徒が発言すると板書し、すぐに「ほかに」と一対一で授業が進む場面が多く見られますが、この先生は、中心発問をしっかりと絞り込んで深める場面を明確にし、一人の発言から様々な児童の考えを聞き出し、学級全体で思考を深めているのでした。ちょっとしたことですが、この学びが、新学習指導要領で目指している「主体的・対話的で深い学び」につながると思います。

今、学校では、教職員の多忙化解消への取組を行うとともに、新学習指導要領への準備も行わなければならないかもしれません。そのような時だからこそ、焦点化・重点化が必要であり、次の視点から来年度に向けて取組を見直してみましよう。

1 仕事の効率化への意識を高めましょう!

子供たちのためにと考えると、授業準備や子供たちへの相談や指導を後回しにすることはできません。しかし、共有フォルダ等を使って学習プリントや資料を共有したり、分掌事務の簡略化を図ったりするなど、事務的な部分を中心に効率化を図っている学校が多く見られます。また、勤務時間を記録することにより、仕事を効率的に行わなければならないという意識が高まったという声も聞かえてきます。大切なことは、今やらなければならないものと、やった方がよいもの、他のことで代用できるもの等を見極めて優先順位を決め、慣例・形骸化しているもの、効果が小さいものなどについては思い切って見直すことが必要です。

2 授業研究の焦点化を図りましょう!

現在、管内のほとんどの学校で授業スタンダードが作成され、全教員で共通理解を図りながら授業実践を行っている様子がうかがえます。高崎市では、市の教育センターが作成した「学習過程スタンダード」をもとに各学校で工夫を加え、授業改善を進めています。やはり、これからは学校の実態や教科の特性を踏まえ、スタンダードのどの部分を中心に授業研究を行うか焦点化を図ることが必要です。今年度、西部教育事務所が進めている「めあて」と「まとめ」の整合もその一つで、授業で目指す児童生徒の姿を明確にして、そこに到達するための道しるべを明らかにすることが、深まりのある授業づくりの第一歩だと考えたからです。現在、各学校で「めあて」と「まとめ」の提示は、かなり定着しています。次は、子供たちの思考力を鍛えるため、自己学習能力を高めるために、どの場面で、どのような指導支援に絞り込んで授業改善を進めるのかなど、その焦点化が課題です。

3 経営の重点化を進めましょう!

特色ある学校経営を行うために、市町村又は学校全体で重点を絞り込むことが大切です。例えば、藤岡市では、中学校区で目指す児童生徒像を統一し、学校要覧を校区で一つにまとめ、小中一貫教育を推進しています。現在、カリキュラム・マネジメントの重要性が叫ばれていますが、例えば、活用力向上や外国語教育の小中連携、地域と一体となった健康教育の推進など、取組の重点を定めて学校全体で組織的に取り組むことで、学校の教育力がより一層高まります。このことは、学年・学級経営でも同様で、「こうなってほしい」という児童生徒像を明確にして指導の重点を絞り込み、継続して取り組むことが大切です。

「量から質への転換」とよく言われますが、今こそ各学校で可能な限り焦点化・重点化を進め、平成30年度の教育活動がさらに充実することを期待しています。